

# Keiba Global Front Line

## 競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介します



### 合田 直弘

12月9日に香港のシャティン競馬場で開催された「香港国際競走」で、施行された4レースのうち2レースを制したフランキー・ロー調教師(52歳)が、今月のこのコラムの主役である。大ブレークを見せたのは昨シーズンで、その段階で香港の中では既に時の人だったのだが、国際的な舞台で脚光を浴びたのは今回が初めてだった。

15歳だった81年に香港で騎手デビュー。94/95年まで15年にわたって騎乗したが、この間の通算勝ち星は27勝に終わっているから、はつきり言えば開花することなく終わったのがフランキー・ローの騎手人生だった。

その後、攻め馬手として働いた時代を経て、アシスタントトレーナーとなり、ジョン・ムーア、ジョン・サイズといったビッグネームを含む複数の調教師のもとで番頭役を務めた後、17/18年シーズンの開幕を前に調教師のライセンスを取得。自ら開業する機会を得た。

シーズン開幕日となった9月3日、第5競走に組まれたクラス4のハンデ戦にユアザウオンフォーミー(父サフィシエント)を送り出したのが管理馬の初出走で、ジョン・モレイラを背にした同馬は道中7番手から差し切つて優勝。いきなり調教師としての初勝利を手にする、上々の船出を見せた。

その後も順調に勝ち星を積みかさね、18年6月16日にシャティン競馬場で行われたクラス3のハンデ戦に送り出したグロリアスフォーエヴァー(父アーチペン)が、ザック・パトンを背に逃げ切り勝ちを演じ、シーズンの通算勝ち星が59勝に到達。01/02年シーズンにジョン・サイズが樹立した記録を上回り、新人調教師による年間最多勝記録を更新したのだった。その後、シーズン末まであと6勝を上積みしたロー師は、87勝のジョン・サイズに続く65勝を挙げて、堂々リーディング第2位の座に就いたのである。

前述した、ロー師に新人調教師としての新記録となる59勝目をブレイクしたグロリアスフォーエヴァーは、英国産馬でランポーンに拠点を置くエド・ウォーカーの管理馬として2歳の夏に祖国でデビュー。英国で8戦2勝の成績を残した後、17/18年シーズンから香港に在籍していた。すなわち、香港における初年度からロー調教師が管理した、いわばフランキー・ロー厩舎にとつての生え抜きがグロリアスフォーエヴァーだった。6月16日のハンデ戦で手にしたのが、同馬にとつての香港初勝利だったが、その後、7月8日にシャティンで行なわれたクラス2のハンデ戦(芝2000m)に駒を進めると、これも連勝。この際に、シャティン競馬場2000mのトラックレコードとなる1分59秒53という時

計をマークし、来るべき18/19年シーズンに向けたスター候補と目されることになった。

グロリアスフォーエヴァーが「生え抜き」なら、2年目のシーズンを迎えたロー厩舎が擁することになった、移籍組の人物がミスタースタニング(父エクシードアンドエクセル)だった。

前のシーズンまでジョン・サイズ厩舎に所属し、デビュー3シーズン目となった17/18年には、G1香港スプリント(芝1200m)を含めて3重賞を制覇した他、G1セネナリースプリント(芝1200m)2着、G1チエアマンスプリントプライズ(芝1200m)2着、G1スプリントC(芝1200m)2着などの実績を残していた、香港短距離界を代表するバリバリの大物が、18/19年シーズンはフランキー・ロー厩舎に移籍してきたのである。

12月9日のシャティンで、ミスタースタニングがG1香港スプリント連覇を達成。そして、グロリアスフォーエヴァーがG1香港カップ(芝2000m)を制し、両馬を管理するフランキー・ローの名が、世界に轟くことになったのだ。

香港競馬の次代を背負って立つことが期待されるフランキー・ローの今後に注目したい。